



Title	現代中国の高等教育と高学歴者の研究動向
Author(s)	侯, 嫻雅
Citation	年報人間科学. 2024, 45, p. 97-112
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/94579
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

〈研究ノート〉

現代中国の高等教育と高学歴者の研究動向

侯 嫻雅

要旨

1977年に全国統一大学入試制度が復活し、1999年の高等教育の拡大政策、そして高等教育の大衆化に至るまで、中国の高等教育は継続的な改革と発展を経てきた。高等教育を受ける人数が増加するにつれ、学歴の価値低下や教育のミスマッチといった問題が、高学歴者の意識や行動に持続的な影響を及ぼしている。本稿では、2010年以降の中国語文献を中心に、現代中国における高等教育と高学歴者に関する現状と研究動向を概観しつつ、中国高等教育の分析において幅広く活用されている調査プロジェクトを紹介した。具体的に、中国の高等教育の改革と現状、高等教育と社会移動、高学歴者の意識と態度に焦点を当て、中国国内の高等教育研究をレビューし、中国研究者の「現地」的視点との間の知識のギャップを埋めることを通じて、今後の課題と展望を提示した。

キーワード

高等教育、社会移動、高学歴者、若者、意識

1. はじめに

1999年から高等教育の拡大に伴い、中国の高等教育はエリート教育から大衆教育へと移行している（陸2021）。高等教育の大衆化に伴い、高学歴の取得とその価値に対する人々の関心はますます高まっている。このような背景の中で、中国の高等教育研究は単なる理論的な議論や多様な結果とその解釈に留まらず、中国の高等教育と高学歴者の意識・行動に焦点を当て、研究成果を構築してきた。

本稿の目的は、中国語文献を紹介しつつ、高等教育と高学歴者研究の現状と動向（特に2010年以降）を考察した上で、現代中国における教育獲得と教育達成、社会移動の関連性を明らかにする。そして、高学歴者の意識と行動の動向を踏まえながら、今後の課題を考察する。さらに、中国の高等教育研究は書籍のみならず国内外の雑誌論文で報告される傾向があるため、本稿では、世界最大かつ継続的に更新される中国語ジャーナルデータベースである「中国学術文献データベース（CNKI）」を用いて、「高等教育」や「大学生」などのキーワードで2010年以降、かつ「CSSCI¹⁾」に分類された文献を検索され、いくつか取り上げる。海外の文献や個別の論文、2010年以前の文献は論旨に必要な範囲で言及するにとどめる。

続く2節では、人口動態や高等教育政策の推移による中国の高等教育自体の変化と発展を振り返った上で、

3節では高等教育と社会移動に関する研究に注目する。まず、高等教育機会の不平等に関する研究を整理し、高等教育から職業達成に関する研究を提示する。そして、4節では、高学歴者の意識と行動の変化に関わる研究を整理し、最終的に5節では中国の高等教育と高学歴者研究の調査プロジェクトと今後の課題について考察する。

関連する先行レビュー研究をみると、中国社会の社会階層、不平等と社会移動をレビューした研究としてはBian (2002)、辺ら (2008)、Wu(2019)、李 (2019) があり、教育の不平等や高等教育をキーワードとしてレビューした研究は姜と孫 (2018)、呉と杜 (2018)、呉 (2020) がある。21世紀以来、教育社会学の動向研究としては杜と牛 (2019) を上げることができ、特に中国における教育機会の不平等、文化的再生産、文化資本の角度からレビューした。

2. 人口動態と高等教育の変容

1949年に成立した中国の教育事業は、1966年から1976年にかけての文化大革命により一時的に中断された。その後、1977年に全国統一大学入試制度が再開されて以来、中国の高等教育は継続的に改革されている。本節では、2022年の「中国統計年鑑」と「中国本科生就業報告」、または2021年の「中国総合社会調査」という3つの包括的なデータを活用し、現代中国における国民の教育、特に高等教育の現状を把握し、中国本土の人口動態を説明する上で高等教育の変容と特徴を明らかにする。

2.1 出生年代と教育

欧米社会では、団塊の世代からZ世代まで、各世代の期間は約15～18年である一方、中国社会では、各世代を区別するために10年の区切りを採用している。「50年代生まれ」から「00年代生まれ」までの各世代が大きな歴史的変遷を経験し、人生の経験、物質的生活条件、社会的文化的環境、教育水準などの世代間差異が明確であり、世代間の意識や行動の対立はより顕著である。そこで本節の関心である高等教育の変容に沿って、現代中国社会の現役世代である1960年代から1990年代に生まれた40年間の世代に注

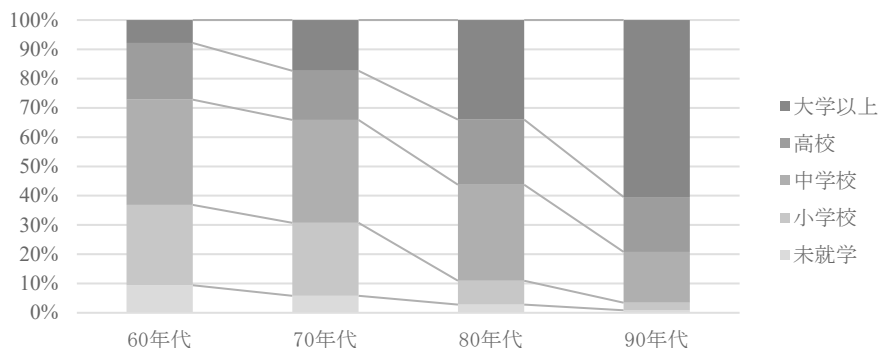


図 2-1. 現役世代の生年代別学歴分布
データ：CGSS2021

目する。つまり、20歳から60歳までの男女に視点を定めていく。図2-1より、2021年時点で現役世代である1960年代から1990年代に生まれた中国人の学歴分布を推計した。まず、1960年代と1970年代に生まれた人々は、小中卒の割合が最も多い。彼らの幼少期はちょうど文化大革命（1966年から1976年）と重なり、大学入試が中断されていた。高等教育を受ける年齢に達した頃、1977年に大学入試が再開され、最初の大学生の波が生まれた。

その後、時代は1980年代へと進んだ。中国政府は1980年に初等教育の普及を開始し、1980年代末までに普及させ、1990年代までに9年間の義務教育を確立するという目標を立てた（Treiman 2013）。1980年代に生まれた人々は、大卒である割合が増加したが、小中卒の割合は依然として無視できない程度であった。彼らの幼少期は、中国の社会経済が1978年の改革開放以来急速に成長していた時期であり、また1979年に導入された「一人っ子政策」が始まった時期でもある。高等教育を受ける年齢に達した1999年の時点で、高等教育の拡大政策により、大学進学機会が大幅に増加した。

そして、1990年代に生まれた人々は、約10年間にわたる一人っ子政策の実施を経験し、親からの教育への期待も高まった。未就学者がほぼなくなり、大卒以上の割合が急激に上昇し、約6割を占めるようになった。全体的に見ると、彼らの学歴分布は大卒と非大卒の間で分断される傾向が見られる。

2.2 高等教育の変容

ここからは、より具体的に現代中国の高等教育が、エリート教育から大衆教育へと変容する3つの段階を紹介する。図2-2は、高校および大学（高等専門学校と大学院を含む）への総就学率の変化を示している。図2-3は、高等教育機関の募集人数を示している。

第一段階は、1978年から1998年までの期間で、改革の段階である。これは、出生年代でいえば、1960

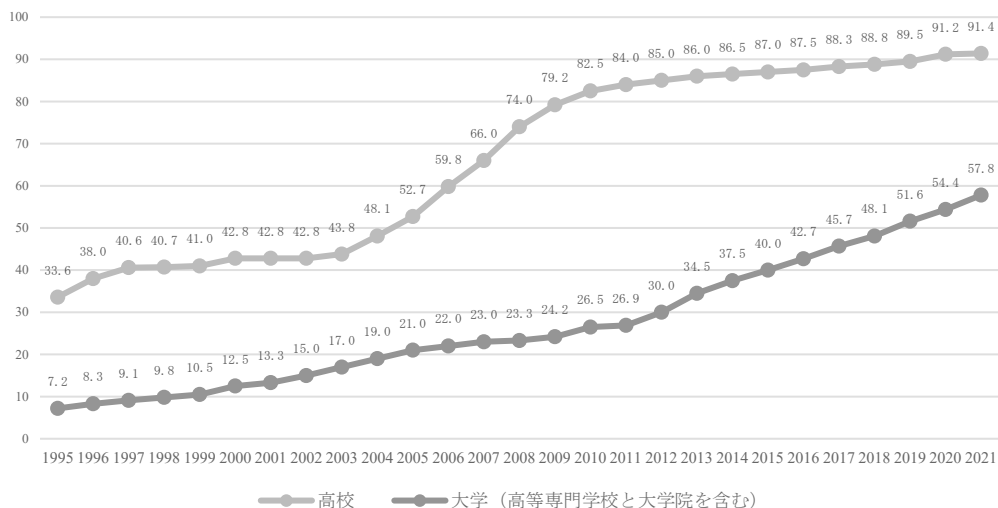


図 2-2. 総就学率²⁾ (単位: %)
データ: 2022 年国家统计局「中国統計年鑑」

年代から1970年代に生まれた18歳以上の男女が高等教育を受ける時期である。1994年から中国政府は世界先進レベルのイノベーション研究型大学と専攻を構築するために「211プロジェクト」および「985プロジェクト」を次々に開始した。図2-2をみるかぎり、1995年から1998年では、大学への総就学率は10%前後で横ばいの傾向が見られるが、高校への総就学率は1997年に初めて40%を超えた。そして図2-3をみると、1978年から1995年までの間、大学の募集人数は少なく、着実に増加していたが、1995年以降急激な増加が見られた。この時期において、大学教育の機会やサポートは親に「頭が良い」と認識された学生に限られ、多くの人々は高等教育を受けず、初等か中等教育を修了した後、直接に職場に入った。大学入学試験に合格し進学した人々は、同年齢の仲間の中で最も優秀な少数派であった。

第二段階は、1999年から2009年までの期間で、発展の段階である。これは、出生年代でいえば、1980年代に生まれた18歳以上の男女が高等教育を受ける時期である。1999年から高等教育を政策的に拡大することにより、大学の総就学率と募集人数が持続的に急増している（図2-2および図2-3参考）。さらに、1999年から始まった高等教育政策の拡大は、高等教育を受ける人数を増やすだけでなく、2003年に導入された「自主募集枠（Independent Freshman Admission, IFA）」という大学入学選抜制度によって、大学入学の選択肢も広げた。この時期では、経済の発展、一人っ子政策、高等教育の拡大の同時進行により、高等教育機関への進学率が急速に増加し、進学できなかった学生も進学を望むようになった（劉 2006）。

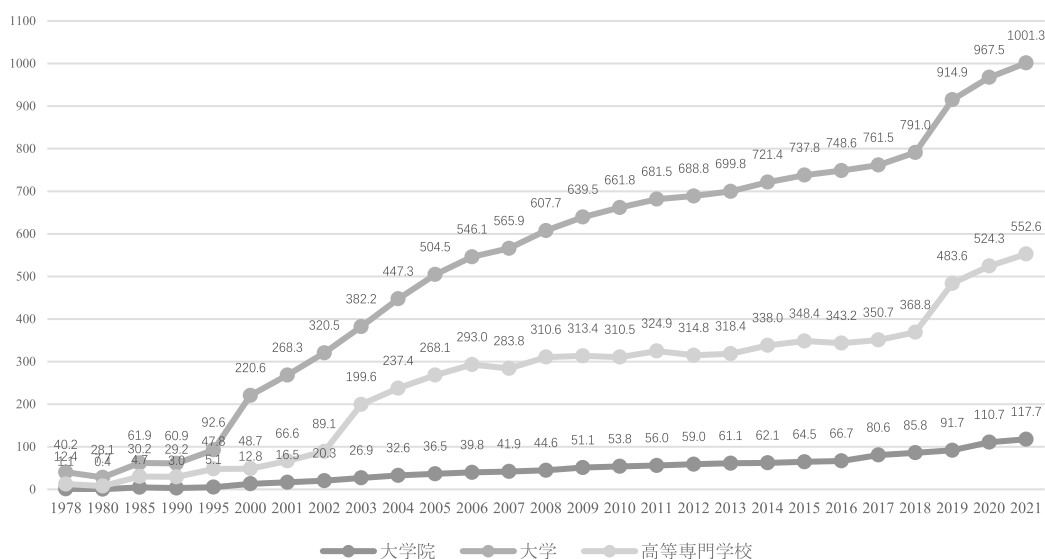


図 2-3. 高等教育機関の募集人数（単位：万人）
データ：2022 年国家统计局「中国統計年鑑」

第三段階は、2010年以降の大衆化段階で、中国の高等教育は急速に拡大し、エリート教育から大衆教育へと移行してきた。この段階では、出生年代でいえば、1990年代に生まれた18歳以上の男女が高等教育を受ける時期である。2010年から2018年の間に、高等教育の拡大は徐々に減速していた。2019年、

李克強首相は第13期全国人民代表大会第2回会議での政府活動報告書で、高等専門学校の受験方法改革と100万人の大規模な拡大募集に言及し、大きな注目を集めた。それと同時に、「211」、「985」、および「双一流」などの一連の重要な高等教育構築プロジェクトが、多くの大学が世界一流大学への前進を支援している（教育部 2017）。図2-4が示すように、2010年以降、大学の総就学率と募集人数が着実に増加し続け、特に2018年以降は、高等専門学校と大学の募集人数が急増している。具体的に、高等専門学校と大学院を含めた大学の総就学率は、2010年の26.5%から2018年の48.1%へ増加し、2019年以降は50%を超え、高等教育のエリート選抜性が低下しており、中国の高等教育が大衆化していることが分かった。

1990年代末以降、高等教育の拡大により、大学数は継続的に増加している。しかし、周と謝（2020）によれば、この増加は211、985、および双一流などの重点大学ではなく、主に非重点大学の新設によるものである。したがって、近年の高等教育機関の募集人数が増加しても、重点大学における教育機会は不十分であり、「エリート教育」の特質を保っている。一方、非重点大学の教育は「エリート教育」から「大衆教育」への移行が進行中で、内部の多様性が増し、階層構造が明確化している。図2-4によれば、2021年の大卒者の進路を見ると、68.6%が「就職」を選択し、残りの約3割は「その他」（25.7%）および「未就業」（5.7%）に分かれる。なかでも、「その他」において、3分の2が国内外の大学院へ進学し、残りの3分の1は進学の準備を行う志願者である。一方、「未就業」の内訳をみると、半数以上が公務員試験や企業の選考に向けて準備を行なっている。さらに、進学や就職のいずれでも該当しない5.7%の「未就職者」と、6.5%の「進学志願者」も存在している。大卒者の進路を考察すると、学歴の価値が低下している中、就職難に直面しながらも、一部の大学進学を通じて「延期就職」を選択する。

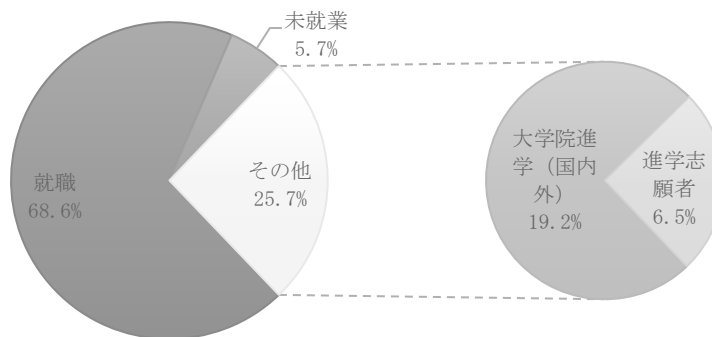


図 2-4. 2021 年大卒者の進路
データ：2022 年中国本科生就業報告

3. 不平等と社会移動

ここでは、特に第2節で触れたように、2010年以降の大衆化した現代中国の高等教育と社会移動に関連する研究に焦点を当て、出身背景から高等教育の取得へ、そして高等教育からキャリアの獲得に関する研究の動向を整理する。

3.1 出身と高等教育

出身と高等教育の関連について、張ら（2017）は、中国の初世代大学生が高等教育大衆化の背景で確実に増加していることを示した。同様に、陳ら（2023）は、高等教育の世代間の移動に焦点を当て、特に中国で大学入学試験が復活して以来の初代大学生の家庭では、子どもの教育をより重要視していることを示している。中国の教育不平等は、工業化、教育の拡大、政府の政策変更、経済改革、そして社会的・政治的变化による階級構造の変化など、複数の要因が相互に作用し合っている（李 2014）。梁と李（2012）によれば、1952年から2002年までの間に、エリート大学を2つ調査した結果、農村出身者の学生の割合が増加し、最終的には安定した傾向が示された。この結果から、中国の高等教育における不平等が減少し、「沈黙の革命」が起こったと論じている。同様に、崔と呉（2018）は、近年の一連の政策的支援により、農村および貧困地域の学生が重点大学に進学する機会が著しく増加したと指摘した。しかし、学生の階層的背景の多様性は、中国の高等教育が平等へと変わるわけではないと広く議論を引き起こした。李（2010）、呉（2013）、呉（2016）の結果からは、高等教育の拡大によって、不平等は一部減少しているように見える部分もあるが、全体的には階層間、戸籍間、学校間など、さまざまな社会集団間の格差・不平等がさらに拡大し続けているといえる。李（2014）は、特に戸籍間の不平等が長期間にわたって存在していると指摘し、優れた高校や大学の進学機会は主に都市の学生によって占められており、この現象は1999年の拡大募集以降さらに顕著になっていると示唆した。熊と楊（2018）や王たち（2017）によれば、農村出身の大学生は学業への適応とパフォーマンスの面で依然として大きな差が存在していると指摘されている。呉（2013）、叶・丁（2015）、呉（2016）は、EMI理論とMMI理論を検証し、中国高等教育の不平等は社会構造の不平等に埋め込まれており、高等教育の拡大によって不平等を減少するわけではないと指摘した。関連して、呉（2019）が、出生コーホートに焦点を当てた分析を行っている。80年代と比較して90年代生まれの学生は大学進学の時期において戸籍間の高等教育機会の不平等は著しく減少しているが、高質な高等教育機会において都市と農村の格差は低下していないことを示した。異なる階層の教育戦略による効果を検証するため、侯（2015）、王と邱（2021）は、地位下降回避仮説と学歴下降回避仮説を比較しながら検討する一方、張と申（2022）は相対的リスク回避仮説を検証した。また、李と呉（2017）によれば、高等教育の格差と不平等において、戸籍だけでなく民族間の要素も考慮し、都市部の戸籍を持つ少数民族は有利である一方、農村部の戸籍を持つ少数民族は高等教育の受ける機会が最も低いと指摘した。

大学進学において、「自主募集枠」制度は重要なメカニズムであり、伝統的な「高考」システムの代替として、申請、推薦、面接などを通じて入学プロセスを拡大した。しかし、Liuら（2014）によれば、「自主募集枠」は、社会経済的に有利な出身者を優遇し、不利な出身者に不平等をもたらす傾向があると指摘された。また、Wuら（2018）は、「自主募集枠」から選ばれた学生が主に都市出身で、大卒の親を持ち、重点高校を卒業した可能性が高いことを述べている。さらに、Ye（2015）、Wu（2017）によれば、中国の教育不平等は高校から大学段階に移行し、高質な高校への進学が高質な大学進学のを増加させ、教育の累積的な利益が存在することを示唆している。

多くの学者は、中国の高等教育が不平等を再生産しており、特に「資本」という重要な概念を用いて不

平等の背後にある理由を探求し、文化的再生産に焦点を当てている。また、中国社会における文化資本に関する研究では、特に農村戸籍や下層階級に焦点を当てた討論が多く蓄積されている。朱（2018）は、標準化された評価制度では、家族の文化資本の影響が弱まり、学力は大学生自身の努力に依存する一方、非標準化された評価では、エリート階層の文化資本が重要な役割を果たすと述べている。関連して、HuとWu（2019）によれば、学生の出身背景と大学での専攻選択との間に文化資本が重要な役割を果たし、文化資本の豊富な学生は、より社会経済的に優越な家庭から来る可能性が高く、文系専攻の傾向が強いことが示唆されている。しかし、鄭（2015）は、中国社会において、「高級文化への参加」という客観化された文化資本が大学生の学業成績に負の影響を与えることを指摘している。

さらに、Shenら（2022）は、北京大学からのエリート卒業生が、政治的および経済的資本を活用して留学を通じて文化的資本を獲得する方法を探求することを研究した。このプロセスが既存のエリートステータスを強化する新しい優位性形態を生み出し、労働者階級の学生を排除していることを示唆している。一方、程（2017）は、「社会学自伝」という手法を用いて、エリート大学に進学した下層階級の学生を対象に、彼らが教育を通じて上昇移動を達成することは、上層・中層階級からの文化的資本の取得ではなく、むしろ「下層階級特有の文化資本」を最大限に活用した結果であると指摘した。

3.2 高等教育と職業達成

高等教育と職業達成の関連について、Liuら（2023）、劉と張（2021）、方と翁（2023）によれば、ポストコロナ時代において、大学生は組織内での安定した就職に高い意欲が示された。呂と範（2016）の結果からは、父親の社会的地位が子どものエリート地位の獲得に影響を与える一方、体制内のエリートと市場のエリートとの世代間の流動性は異なる歴史的時期においても存在し、将来的には体制内のエリートが主導的な地位を強化する可能性が示唆された。DongとFan（2021）は、1999年高等教育の拡大の政策効果を分析した結果、高等教育の拡大後、大卒者の初職における不平等が持続的に増加していることが示された。関連して、周と謝（2020）は、高等教育の拡大前後で大学の収益率を比較した。拡大前には大学と高校の間には明確な差異が存在していたが、拡大後にはエリート大学と一般大学の間の差が拡大し、一般大学と高校の間には明確な差異が存在しなくなったと指摘した。Liら（2023）は、大学教育のリターンに焦点を当て、中国の労働市場において大卒者のソーシャルネットワークと学歴のシグナリング効果がより重要であることを指摘した。関連して、張と陳（2022）は、出生コーホートと収入の両者から高等教育の学歴のシグナリング効果に焦点を当てた分析を行った。その結果、高等教育の学歴は収入にプラスの影響を与え、個人への追加収入をもたらす傾向が安定している一方で、1990年以降に生まれた若いコーホートに対しては、高等教育の学歴による追加収入が著しく減少していることが示されている。同様に、黄と易（2021）は収入の学歴差に焦点を当て、高等教育を受けたグループと受けなかったグループの教育収益率を比較した。地域間の格差は存在するが、全体的に、就業経験が1年増えるごとに、高等教育を受けたグループの平均月給収入増加率は、受けなかったグループの約5倍になることが示された。また、尚と王（2020）によれば、戸籍に関係なく、大学の学歴は社会的地位の獲得に大きなプラスの影響を与

える一方で、家族の背景による優位性は都市戸籍を持つ人々の世代間地位再生産を促進していると指摘された。しかし、楊と岳（2016）によると、大学の専攻分野は、家族背景が初職に与える影響を緩和する傾向があると指摘されている。また、何（2023）によれば、学歴と階層帰属意識について、農村出身者にとって、大学の学歴が依然として重要な影響を持つことが示されている。特に、大学の学歴は農村出身の若者が公務員などのような組織内での就職機会を高め、階層帰属意識を向上させるのに寄与することを示した。

学歴以外に、大学ランクあるいは学校歴が職業達成に与える影響に注目する研究も多く見られている。王（2015）によれば、大学ランクは大学生の就職における性別格差に大きな影響を与え、大学のレベルが高いほど性別格差が少ないことを示した。関連して、劉と張（2021）は、大学ランクと専攻分野が同時に大卒者の就職に影響を与えていると指摘した。一方、汪と董（2014）、武（2017）、王と蔣（2020）、馬と叶（2023）によれば、学士課程の学校ランクが修士・博士課程の卒業生の初職にも重要な影響を与えていることが示されている。

そして、多くの学生にとって、海外留学は就職競争力を高めるための選択肢の一つとなっている。許ら（2014）によれば、海外留学経験が中国（特に東部地域）の労働者の賃金収入を著しく向上させることを指摘した。また、潘と劉（2018）は、中国国内の学部卒業生に対する追跡調査を通じて、家族背景、学業成績、就職状況などをコントロールした結果、海外大学院卒の学生が国内の大学院卒よりも初職の給与が25%高いことを示している。一方で、劉ら（2017）は、海外留学経験者の国内就職について検討し、近年の留学経験者に対する中国労働市場でのメリットが減少しているものの、高質な海外教育は依然として中国の就職活動に役立つと述べている。

さらに、教育拡大後の先進国の労働市場における教育のミスマッチ現象と同様に、現代中国社会においても、多くの大卒者が適切な職に就けず、低スキル・低収入の職を受けざるを得ない状況が存在し、その結果、教育投資のリターンが低下している。呉と李（2021）は、APCモデルを用いて、中国における各年齢・時代・コーホートの仕事と教育のミスマッチを検討し、高等教育の拡大に伴い、過剰教育は若いコーホートでより顕著になっていると指摘した。

4. 高学歴者と彼らが高学歴への意識と態度

高等教育研究は、家族・学歴・職業などとの関連のみを観察するのではなく、学歴を追求する若者の意識と態度の変化やそれと社会経済的特徴との関連を考察する必要がある。学問としての中国の若者研究は1980年代の中後半から1990年代初めにかけて始まり、社会経済的な改革とともに成長してきた（呉2012）。李（2018）によれば、社会学者は、特に「80年代生まれ」と「90年代生まれ」の2つの世代に焦点を当て、若年層内部の構造的な違いから出発し、若者研究の対象を大まかに2つに分類している。一つは、高等教育を受ける若者（大学生、大卒者、都市のホワイトカラー労働者など）に焦点を当て、若者の文化的現象、大学生の雇用、ネットワーク活動、消費志向、政治的態度などを分析対象としている。も

う一つは、新世代の移民労働者に焦点を当て、若い移民労働者の生活のジレンマ、社会的統合、権利などを研究している。本節では、特に高等教育を受ける若年層、特に大学生や大学院生などの高学歴者、およびその親に焦点を当て、教育、就職、生活などへの意識と態度についての研究動向を整理する。近年では若者研究の実態や変化を明らかにした研究が、呉（2012）や李（2018）によってまとめられている。また、中国留学生に関する近年の中国語と英語研究をレビューしたXu（2022）をあげることができる。

高等教育の大衆化が進んでおり、多くの人々が大学教育を受ける選択をする中で、教育期待の焦点も「機会」から「質」へと変わりつつある。李（2010）によれば、高等教育の拡大は階層間の競争を和らげる効果は持たず、むしろ有利な階層は子どもにより高品質な高等教育（たとえば、優れた大学や将来性の高い専攻）を追求するようになっている。同様に、楊ら（2016）は、家族背景に関わらず、親も学生自身も全体的に大学への進学を期待する傾向があることが示している。関連して、余（2020）の調査によれば、都市部の中産階級である親は、9割以上が子どもに大学進学を期待しており、そのうち約6割の親は子どもが「一流大学」に進学することを期待している。

近年、雇用情勢が深刻化し、同時に大学院の募集人数が増加する中で、大卒者は就職を延期して大学院に進学する傾向がますます強まっている。朱（2021）の研究によれば、2000年代に生まれたエリート大学の学生は、一般的には大学院進学を期待していることが示された。関連して、王（2020）は、上海の大学生に対する調査で、大学ランクが大学生の出身背景と大学院進学期待の間に媒介効果を持つことが示され、特に出身背景や大学ランクが高い場合、大学院進学への期待が高まる傾向があることが明らかにされた。一方、鄭（2023）は、「文化的な障壁」という用語を用いて、異なる背景を持つ大学生がエリート大学で自発的または受動的に形成する卒業後の進路選択意向を分析し、大学生は常に明確な目標を持って合理的な選択をするわけではなく、組織的な行動の明確な理由や目的を欠くこともあると指摘した。

そして、国内進学以外に海外留学への意欲に関する研究も多く蓄積されている。王（2021）は、上海へ移住した上層階級の家族が、戸籍制度上の不利な立場から、子どもの教育を海外で受けることを選択する傾向があることを示した。陸ら（2014）は、中国の北京、広州、武漢、西安の各レベルと種類の大学の卒業生を対象として調査した結果によって、44.3%の大学卒業生が大学卒業後に海外で大学院教育を受ける希望がある。沈（2017）は、高いランクの大学を卒業する学生ほど、留学を選ぶ割合が高いと指摘した。また、李（2016）、高と蔣（2019）によれば、留学意欲のある学生は通常、学業成績が優れており、家庭の経済状況が良好で、外国語能力が高い優れた生徒である傾向があると指摘されている。

高等教育の拡大と競争の激化により、就職難や教育のミスマッチなどの問題が生じ、一部の大学生は自身の弱いバックグラウンドを緩和するのが難しいと感じ、エリート大学に入学しても、将来に対する失望感や格差感を抱くことがあり、多くの研究者がこの現象に関心を寄せている。代と李（2021）によれば、一部の地方出身である一流大学の学生が「小鎮做题家」という否定的な態度を持っており、具体的には、自身に対する「大きな期待」と出身家庭からの「弱い支援」という不調和から、彼らは無力感を感じていることが示された。それに対して、黄（2020）は、一流大学ではなく、一般大学の学生も同様な悩みを抱えていることを指摘した。また、謝（2017）、蔡ら（2021）、劉と朱（2021）によれば、近年では、

ほとんどの家族は子どもに対して高等教育を期待しているが、高質な教育資源が限られており、大学を卒業しても就職が難しい状況が問題視されている。そのため、「読書無用論」といった否定的な考えが不利な階層の家族で広まり、大学進学への意欲が低下していることが示されている。

そして高等教育と個人の幸福感について、劉と劉（2021）によれば、高等教育の拡大は社会的流動性を促進し、個人の幸福度を向上させる一方で、その持続的な拡大に伴い、高等教育が個人の幸福度に与える平均的な効果は下降傾向にあることを示唆されている。同様に、房と孫（2022）は、傾向スコアマッチング（PSM）を用いて、高等教育が全体的に主観的幸福感を促進することを示したが、高等教育の拡大後、幸福感は一時的に上昇し、その後減少する傾向が観察された。またLiuら（2023）によれば、1999年からの高等教育拡大政策はコロナ禍においても個人の主観的幸福を大幅に向上させることが示された。

5. 調査と研究の今後

まず押さえておくべきは、社会・高等教育研究の基盤となる調査プロジェクトの動向である。中国の社会研究における重要な調査である「中国総合社会調査（Chinese General Social Survey、CGSS）」は、2003年から実施され、高等教育と社会移動に関する多く成果が報告された（呉 2019；張・陳 2022；黄・易 2021；侯 2015；呉・李 2021；房・孫 2022）。また、「中国家族追跡調査（China Family Panel Studies、CFPS）」は、中国の社会、経済、人口、教育、健康の変化を反映されており、特に教育に関わる多く成果が報告された（周・謝 2020；王・邱 2021；蔡ら 2021）。そして、2005年に中国社会科学院社会研究所によって設立された全国規模の追跡調査プロジェクトである「中国社会状況総合調査（Chinese Social Survey、CSS）」は、中国の社会変化に関するデータを長期縦断的に収集し、雇用、家族・社会生活、社会意識などのトピックを調査している。また、中国の都市および農村において2年ごとに実施される「中国労働力動態調査（China Labor-force Dynamics Survey、CLDS）」は、労働者に焦点を当てて社会経済の変動を追跡調査している。さらに、中国の大学生を対象とした「中国大学生追跡調査（Panel Study of Chinese University Students、PSCUS）」、「中国大学生学習と発展追跡研究調査（China College Student Survey、CCSS）」、および北京の公立大学に在籍する大学生を対象とした「北京大学生追跡調査（Beijing College Students Panel Survey、BCSPS）」などの調査プロジェクトが存在する。2010年以来、中国の高等教育と高学歴者研究では、これらの大規模な社会調査データや特定の対象に焦点を当てた独自の調査をもとに、高等教育の改革、職業達成、および高学歴者の意識と行動の変化などが研究されている。

全体的に、現代中国社会では、高等教育の拡大は、社会移動と教育機会の均等化を進め、不利な家庭背景を持つ人々の上昇移動をある程度促進し、階層格差を縮小させた。ただし、他の先進国とは異なり、現代の中国社会は依然として継続的な改革と発展の時期にあり、高等教育の改革もまだ進行中である。同時に、中国独自の政策と組織構造の影響から、特に高質な教育へのアクセスには依然として多くの不平等が存在している。このように、家族背景や高等教育、そして職業達成などの社会経済特徴間の関連は、引き続き議論の焦点となっている。一方、高学歴者に焦点を当て、大卒者の競争力の低下する中、大学のラン

ク、専攻分野、大学院進学、海外留学などが競争力向上の要因としてますます重要視されている。さらに、多くの大卒者が適切な職に就くことが難しく、仕事と教育のミスマッチが生じており、高学歴者も将来に対する失望感や不安感が強くなる。近年、これらの要素に焦点を当てた研究が増加しており、今後も学術的な価値と社会的な意義が高まっている。

そして、本稿が注目されている2010年以降の中国高等教育と高学歴者の研究では、以下の3段階に分けられると考えられる。まず2010年前後では、高等教育の持続的な改革と拡大による社会移動や教育の不平等に焦点を当てていた。特に農村と都市の不平等に焦点を当てた研究が多く行われていた。2015年前後の研究において、高等教育拡大の効果を検討しつつ、特に90年代に生まれた若者や大学生に焦点を当て、80年代に生まれた世代と比較し、彼らの職業生活、大学生活、および心理的变化などを検討した。これは、1979年から実施されていた一人っ子政策の影響を受けた世代が高等教育を経験している時期に関連している。家庭からの精神的・経済的支援をより多く受けていた彼らは、一人っ子政策や高等教育の拡大から得られるはずの利益を享受する代わりに、ますます激化する学歴競争や就職競争に巻き込まれている時期である。そのため、この段階では、若者の進学や高学歴者の就職などの行動と意識に注目し、検討する研究が数多く存在している。しかし、このような行動が、彼らの競争に追い込まれる窮状を変え、望ましい生活を送ることができるのだろうか？既存の研究では、高学歴者の幸福感などから仕事や家族への幸福感など以外に高等教育による主観的幸福感も多く蓄積している。

そして、2020年前後の研究では、上記の課題に対する議論が進む一方で、00年代に生まれた若者に関する研究も始まった。90年代に生まれた人々と同様に、高等教育に「罨」に陥っていると感じている00世代に生まれた若者は、より多くの選択が持つ。90年代と00年代の高学歴者はZ世代として、研究者が国際的に比較しながら分析している。もちろん、この時期では、新型コロナウイルスの流行による影響も考慮されつつ、再度拡大した高等教育や職業教育が分析の焦点になった。また、激化する競争や学歴と職業のミスマッチなどの問題が依然として存在し研究の焦点である。

今後の高学歴者への研究においては、高等教育の改革とその効果、社会移動と不平等に焦点を当てるだけでなく、高学歴者の意識や行動の変容についても議論する必要がある。また、高等教育に限らず、職業教育、生涯教育などに関するさらなる研究の蓄積が求められる。教育史学者である李（2017）によれば、中国の教育伝統に貫かれる思想の核心は、「為己之学」という個人の道徳的な成長と精神的な発展を追求するものであり、この考え方は長期にわたり中国を含む東アジアの国々の大学教育の理念に深い影響を与えている（Li and Hayhoe 2012）。したがって、高等教育の因果だけでなく、高学歴教育の中身と精神的な発展に関する研究が今後ますます期待されている。このように、高等教育が中等教育段階と結びついてより深い不平等と分断を引き起こしている点に着目し、若者の意識と行動についての探求は、長期的な課題となっている。

文獻

- [1] Bian, Yanjie, 2002, "Chinese Social Stratification and Social Mobility," *Annual Review of Sociology*, 28(1): 91-116.
- [2] 辺燕杰·吳曉剛·李路路編, 2008,『社会分層与流動——国外学者对中国研究的新進展』中国人民大学出版社.
- [3] 蔡心丰·程章繼·陳武元, 2021,「社会資本、家庭教育期望与階層流動——基于“中国家庭追踪調查”的实证研究与思考」『教育發展研究』41(20): 9-21.
- [4] 程猛, 2017,『“讀書的料”及其文化生產——当代農家子弟成長叙事研究』中国社会科学出版社.
- [5] 陳涛·張艷·薛海平, 2023,「走向再塑——第一代大学生家庭教育代際伝通的双重效应」『華東師範大学学報（教育科学版）』41(04): 111-126.
- [6] 崔盛·吳秋翔, 2018,「重点高校招收農村学生專項計劃的實施成效与政策建議」『教育發展研究』38(3): 18-25,50.
- [7] 代玉后·李濟沅, 2021,「“小鎮做题家”現象的透視与解析」『中国青年研究』(7): 89-95.
- [8] 杜亮·牛麗莉·張莉莉, 2019,「21世紀以来我国教育社会学研究進展述評」『清華大学教育研究』40(05): 40-48.
- [9] 方潔·翁馨, 2023,「“上岸”偏好——一流高校卒業生走向体制内的就業選择——基于理性選择理論的分析」『中国青年研究』(5): 34-41.
- [10] 房敏·孫穎, 2022,「高等教育对主觀幸福感的淨效应評估——基于多組傾向得分匹配的准实验研究」『大学教育科学』(5):72-84.
- [11] 高文娟·蔣承, 2019,「国内読研還是出国留学——家庭背景对本科生升学選择的影响及趨勢分析」『教育發展研究』39(13):45-53.
- [12] 国家統計局, 2022,『中国統計年鑑』中国統計出版社.
- [13] Hao, D. and Fan, X., 2021, "What enables the 'meritocratic power' of a college degree? Changing labor market outcomes of first-generation college graduates in post-revolution China," *Chinese Sociological Review*, 53(4): 382-408.
- [14] 何興邦, 2023,「大学文凭還有助于農家子弟提升社会階層認同嗎——以体制内身份獲取優勢為研究視角」『山西財經大學学報』45(3): 30-42.
- [15] 侯利明, 2015,「地位下降回避還是學歷下降回避——教育不平等生成机制再探討 (1978-2006)」『社会学研究』30(2): 192-213.
- [16] Hu, A. and Wu, X., 2019, "Science or liberal arts? Cultural capital and college major choice in China," *Br J Sociol*, 70: 190-213.
- [17] 黄灯, 2020,『我的二本学生』人民文学出版社.
- [18] 黄靜·易麗, 2021,「非高等教育与高等教育群体的教育收益率比較分析」『科技与經濟』34(4): 6-10.
- [19] 姜星海·孫瑀鋐, 2018,「我国高等教育公平研究述評」『清華大学教育研究』39(04): 119-124.
- [20] 教育部, 2017,「統籌推進世界一流大学和一流学科建設實施辦法（暫行）」, (2023年9月21日取得, http://www.moe.gov.cn/srcsite/A22/moe_843/201701/t20170125_295701.html).
- [21] Li, H., Wang, H., Cousineau, C. and Boswell, M., 2023, "What Can Students Gain from China's Higher Education?" *Asian Economic Policy Review*, 18: 287-304.
- [22] Li, J., and Hayhoe, R., 2012, Confucianism and higher education, *Encyclopedia of Diversity in Education*, (1): 443-446.
- [23] 梁晨·李中清, 2012,「无声的革命——北京大学与蘇州大学学生社会来源研究 (1952-2002)」『中国社会科学』(1): 98-118.
- [24] 李春凱·吳煒, 2017,「民族身份、城鄉分割与高等教育不平等」『北京社会科学』(09): 42-49.
- [25] 李春玲, 2010,「高等教育擴張与教育机会不平等——高校扩招的平等化效应考察」『社会学研究』25(3): 82-113.
- [26] ———, 2014,「教育不平等的年代变化趨勢 (1940-2010)——对城鄉教育机会不平等的再考察」『社会学研究』

- 29(02): 65-89+243.
- [27] ———, 2018, 「社会变迁与中国青年問題——中国青年社会学的关注点及研究取向」『青年探索』0(2).
- [28] ———, 2019, 「中国社会分層与流動研究 70 年」『社会学研究』0(6).
- [29] ———, 2020, 「疫情衝擊下的大学生就業——就業压力、心理压力与就業選擇变化」『教育研究』41(7).
- [30] 李弘祺, 2017, 『学以為己: 伝統中国的教育』, 華東師範大学出版社.
- [31] Liu L, Wagner W, Wu X, Trautwein U., 2014, “Independent freshman admission and educational inequality in the access to elite higher education,” *Chinese Sociological Review*, 46(4): 41-67.
- [32] Liu S, Yu F, Yan C., 2023, “The Impact of Higher Education Expansion on Subjective Well-Being during the COVID-19 Pandemic: Evidence from Chinese Social Survey,” *Sustainability*, 15(7): 5705.
- [33] 劉保中・張月云, 2022, 「高等教育分流与大学生就業机会差异」『青年研究』443(2): 41-51.
- [34] 劉成斌・張晏郡, 2021, 「向体制内卷——疫情風險对大学生就業價值觀的影响」『江漢學術』40(4): 5-13.
- [35] 劉煥然・朱新卓, 2021, 「讀大学“有用”還是“无用”——新時期農民高等教育價值觀的扎根理論研究」『高等教育研究』42(10): 45-52.
- [36] 劉精明, 2006, 「高等教育擴展与入学机会差异: 1978-2003」『社会』26(3): 158-179.
- [37] 劉瓊・劉珊珊, 2021, 「教育期望、社会流動与国民幸福感——基于高校招生的准自然实验」『浙江工業大学学报(社会科学版)』20(2): 208-214.
- [38] 李忠路, 2016, 「家庭背景、学業表現与研究生教育机会獲得」『社会』36(3): 86-109.
- [39] 陸根書・田美・黎万紅, 2014, 「大学生出国留学意愿的影响因素分析」『复旦教育論壇』(5): 36-44.
- [40] 呂鵬・範曉光, 2016, 「中国精英地位代際再生產的双軌路径(1978-2010)」『社会学研究』31(5): 114-138.
- [41] 陸一, 2021, 「学業競爭大众化与高考改革」『教育研究』42(9): 81-92.
- [42] 麦可思研究院・王伯屹・王梦萍, 2022, 『就業藍皮書: 2022 年中国本科生就業報告』.
- [43] 馬莉萍・叶曉梅, 2023, 「金本、銀碩、銅博: 能力信号還是學歷歧視?——基于某“双一流”建設高校 10 屆博士畢業生的实证研究」『華東師範大学学报(教育科学版)』41(2): 14-24.
- [44] 潘昆峰・刘佳辰, 2018, 「留学帰国研究生的工賃溢价及其影响机制」『学位与研究生教育』(9): 53-59.
- [45] 尚進云・王振振, 2020, 「家庭背景、大学文凭与職業階層地位獲得的城鄉差异——基于 EGP 職業階層分類的新觀察」『复旦教育論壇』18(5): 79-85.
- [46] Shen Wenqin, Liu Ye, Liu Yunshan and Huang Ying, 2022, “Elite Mobility and Conversions of Different Forms of Capital: An Investigation of Patterns of Study Abroad amongst Elite Graduates from Peking University in China,” *Studies in Higher Education*, 47(8): 1601-1612.
- [47] 沈文欽, 2017, 「我国高校本科卒業生出国就讀現狀及其趨勢分析——基于院校差异的視角」『中国高教研究』(10): 78-82, 87.
- [48] Treiman DJ., 2013, “Trends in educational attainment in China,” *Chinese Sociological Review*, 45(3): 3-25.
- [49] 汪棟・董月娟, 2014, 「博士生就業市場“第一學歷歧視”問題研究」『中国青年研究』(5): 82-85.
- [50] 王甫勤・邱婉婷, 2021, 「家庭社会階層、教育期望与課外教育——基于 CFPS2016 的实证研究」『中国青年社会科学』40(6): 87-95.
- [51] 王甫勤, 2020, 「家庭社会经济地位与讀研期望——高校特征的中介效应」『青年研究』(3): 1-14.
- [52] 王蕾, 2021, 「教育想象与制度性自我選擇——对上海随迁子女自費本科留学現象的研究」『江蘇高教』(5): 41-47.
- [53] 王天驕・蔣承, 2020, 「“本科出身”重要嗎?——“双一流”建設高校本科學歷对研究生就業質量的影响」『中国高教研究』(10): 69-75.
- [54] 王小虎・潘昆峰・吳秋翔, 2017, 「高水平大学農村和貧困地区專項計劃学生的学業表現研究——以 A 大学為例」『国家教育行政学院学报』(5): 66-75.

- [55] 王占国, 2015, 「性別、高等教育分流与大学生就業質量——基于全国 17 所高校 1354 名卒業生の実証分析」『高教探索』(12): 107-111.
- [56] Wu X, Li Z, Wang N., 2018, "Independent Freshman Admission Program (IFAP) in China's higher education: evidence from three national elite universities in Beijing," *Chinese Sociological Review*, 51(1): 1-28.
- [57] Wu, X., 2017, "Higher education, elite formation and social stratification in contemporary China: Preliminary findings from the Beijing College Students Panel Survey," *Chinese Journal of Sociology*, 3(1): 3-31.
- [58] ———, 2019, "Inequality and Social Stratification in Postsocialist China," *Annual Review of Sociology*, 45(1): 363-382.
- [59] 吳煒, 2019, 「新中国成立以来我国高等教育城鄉不均衡的最新演變——基于 CGSS2015 数据的分析」『中国農業大学学报 (社会科学版)』36(5): 129-136.
- [60] 武瑋, 2017, 「研究生第一學歷与起薪差异」『教育与經濟』33(3): 89-96.
- [61] 吳曉剛·李曉光, 2021, 「中国城市勞動力市場中教育匹配的變遷趨勢——基于年齡、時期和世代效应的動態分析」『中国社会科学』(2): 102-122.
- [62] 吳曉剛, 2016, 「中国当代的高等教育、精英形成与社会分層来自“首都大学生成長追蹤調查”的初步發見」『社会』36(3): 1-31.
- [63] 吳小英, 2012, 「青年研究的代際更替及現狀解析 (上)」『青年研究』(4): 12-21.
- [64] 吳愈曉·杜思佳, 2018, 「改革开放四十年来的中国高等教育發展」『社会發展研究』(2): 1-21.
- [65] 吳愈曉, 2013, 「教育分流体制与中国的教育分層 (1978-2008)」『社会学研究』(4): 179-202.
- [66] ———, 2020, 「社会分層視野下的中国教育公平: 宏觀趨勢与微觀机制」『南京師大学報 (社会科学版)』(4): 18-35.
- [67] 謝愛磊, 2017, 「“讀書无用”還是“讀書无望”——对農村底層居民教育觀念的再認識」『北京大学教育評論』15(3): 92-108.
- [68] 熊靜·楊頌, 2018, 「招生政策傾斜背景下農村、貧困專項計劃大学生學業适应研究——基于某“双一流”建設高校の実証調查」『中国高教研究』(7): 30-38.
- [69] Xu, C.L., 2022, "Portraying the 'Chinese international students': a review of English-language and Chinese-language literature on Chinese international students (2015-2020)," *Asia Pacific Education Review*, 23: 151-167.
- [70] 許家云·刘廷華·李平, 2014, 「海外留學經歷是否提高了个人收入?」『經濟科学』(1): 90-101.
- [71] 楊習超·姚遠·張頌, 2016, 「家庭社会地位对青少年教育期望影响研究——基于 CEPS2014 調查数据的実証分析」『中国青年研究』(07): 67-73.
- [72] 楊中超·岳昌君, 2016, 「學歷、專業对高校卒業生初職社会經濟地位的影响研究——基于全国高校卒業生調查数据的実証分析」『教育研究』37(10): 65-77.
- [73] Ye H., 2015, "Key-point schools and entry into tertiary education in China," *Chinese Sociological Review*, 47(2): 128-153.
- [74] 叶曉阳·丁延屹, 2015, 「擴張的中国高等教育: 教育質量与社会分層」『社会』35(03): 193-220.
- [75] 余秀蘭, 2020, 「父母社会背景、教育價值觀及其教育期望田」『南京師大学報 (社会科学版)』(4): 62-74.
- [76] 張華峰·郭菲·史静寰, 2017, 「促進家庭第一代大学生参与高影响力教育活動的研究」『教育研究』38(6): 32-43.
- [77] 張琦·陳建華, 2022, 「高等教育的文憑效应及其异質性——基于中国綜合社会調查数据的実証分析」『現代教育論叢』(06): 94-106+112.
- [78] 張云武·申昊, 2022, 「高校招收后不同階層教育獲得的差距与机制——基于順序邏輯模型的數理分析」『浙江社会科学』(3): 89-98.
- [79] 鄭雅君, 2015, 「誰是 90 后名校優等生——文化資本与學業成就关系的个案研究」『甘肅行政学院学报』(05): 69-81+127-128.

- [80]———, 2023, 『金榜提名之后: 大学生出路分化之謎』上海三聯書店.
- [81] 周揚・謝宇, 2020, 「从大学到精英大学: 高等教育擴張下的異質性收入回報与社会歸類机制」『教育研究』41(05): 86-98.
- [82] 朱斌, 2018, 「文化再生産還是文化流動?——中国大学生的教育成就獲得不平等研究」『社会学研究』33(01): 142-168+245.
- [83] 朱彦珺, 2021, 「想象中的文凭——重点高校“00后”本科生的讀研動機探析」『青年學報』(3):74-81.

注

- 1) CSSCI (Chinese Social Sciences Citation Index) は、中国の学際的な引用プログラムであり、中国の人文・社会科学系の学術雑誌約500誌をカバーしている。現在、中国の多くの一流大学がCSSCIを学術業績の評価や昇進の基準として利用している。
- 2) 総就学率とは、就学者数をその学年に就学すべき年齢の人口で割ったものである。

Research Trends in Higher Education and Highly Educated Individuals in Contemporary China

Xianya HOU

Abstract:

The national unified university entrance examination system was reinstated in 1977 toward the expansion policy of higher education in 1999 and the subsequent massification of higher education. Since then, the higher education system in China has undergone continuous reform and development. Consequently, the number of individuals pursuing higher education have increased. Therefore, issues, such as the devaluation of educational credentials and mismatches have exerted a sustained influence on the consciousness and behaviors of highly educated individuals. This study provides an overview of the current state and research trends related to higher education and highly educated individuals in contemporary China. Specifically, it focuses on Chinese-language literature published since 2010. It also introduces research projects that are widely utilized in the analysis of Chinese higher education. Lastly, it investigates the reforms and status of higher education in China, the relationship between higher education and social mobility, and the awareness and attitudes of highly educated individuals. By reviewing local research on higher education in China and bridging the knowledge gap between the local perspectives and external analyses of Chinese scholars, this paper presents future challenges and prospects in the field.

Key Words : higher education, social mobility, highly educated individuals, youth, consciousness